

平常時から災害時への連続性を考慮した 地域情報ポータルサイトG-motty ～住民・自治体・大学・民間企業が連携するようになった！～

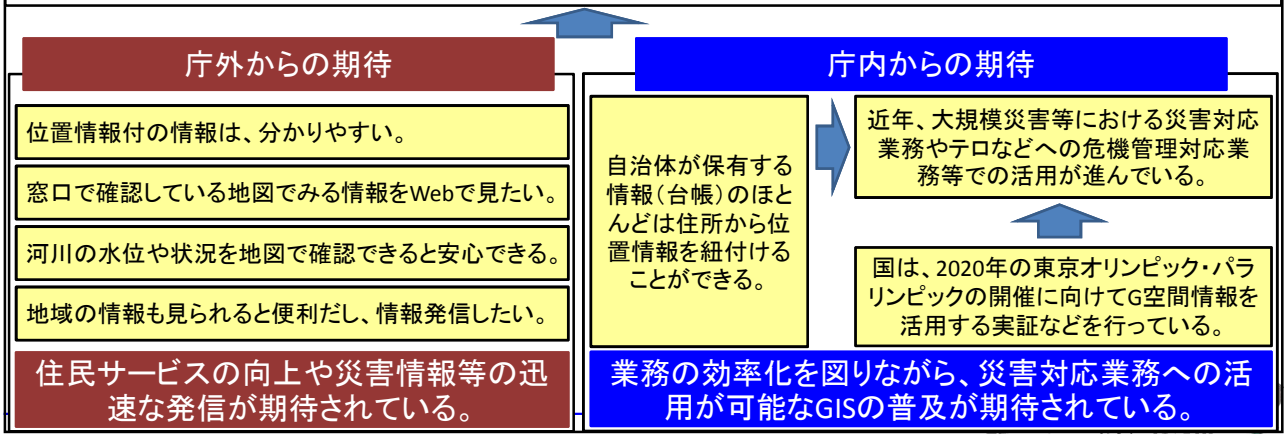
病院も！

北九州市立医療センター医療情報管理室
塩田 淳

- 1 北九州地区電子自治体推進協議会(KRIPP)と一般社団法人G-motty
- 2 地域情報ポータルサイトG-mottyで実現した例
- 3 モノ創りに必要な要素

庁内外からの期待に応える地理空間情報プラットフォーム

- ①「**位置情報付**」の情報を発信できる「**持続可能な**」運用まで考慮した仕組み
- ②業務効率化や住民サービス向上に繋がる「**IoT等の最新技術**」を使える仕組み
- ③「**自治体間連携**」や「**地域住民との連携**」による情報発信できる仕組み



巨過市場の情報

行政情報

防災情報

街歩き

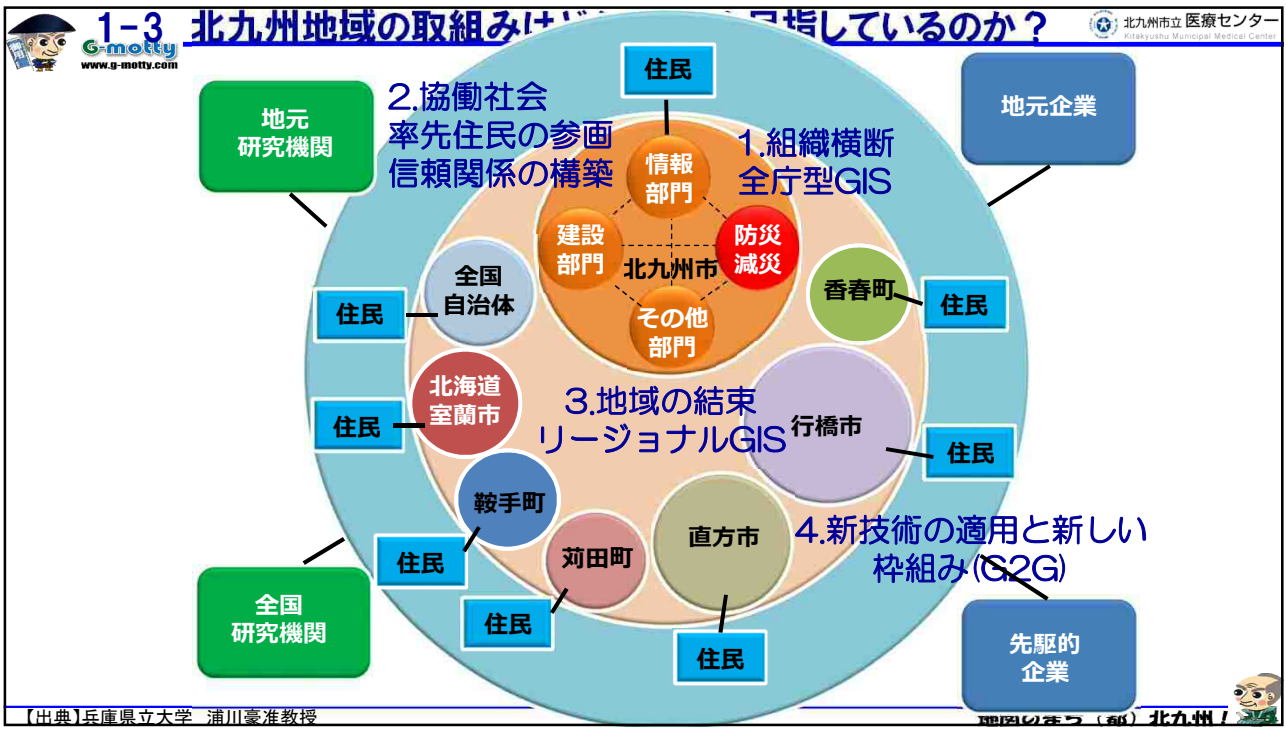
地域活動

地域情報ポータルサイトG-mottyは、**行政情報、防災情報、地域情報(街歩き、食事処、市場、病院など)**等住民の皆さんがここを見ればこの地域の情報が分かるポータルサイトを目指して、**住民、自治体、大学、民間企業等が連携して構築しました!**

ラボ

G-motty

検索



1-4 北九州地区電子自治体推進協議会と一般社団法人G-motty

●北九州地区電子自治体推進協議会 (KRIPP)

【目的】

会員相互の密接な連携により、行政サービスの向上と簡素で効率的な行政システムの確立を目指した電子自治体の推進を図ること。

【加盟団体】

普通会員名	
福岡県北東部地域の市町村	北九州市
	行橋市
	豊前市
	中間市
	芦屋町
	水巻町
	岡垣町
	遠賀町
	萩田町
	みやこ町
	吉富町
	上毛町
	築上町
	直方市
香春町	
鞍手町	
協議会の趣旨に賛同する市町村	岩手県釜石市
	北海道室蘭市

- ① 全18自治体で運営している。
- ② LGWANとGISと住民情報のバックアップを共同で運用している。
- ③ G-mottyの取り組みは、KRIPPのGIS部会で行っている。
- ④ G-mottyの運営は、KRIPPと一般社団法人G-mottyが協定を結び、自治体の費用負担なしで行っている。
- ⑤ GIS部会の中で「地域GIO」会議を開催している。
- ⑥ GIS部会会則の所管事項に「災害発生時のGISを利用した相互協力に関すること」が入っている。



- ◆各自治体内でGISに関する業務の取りまとめ
- ◆GIS広域勉強会の企画・運営
- ◆GISを利用した業務改革・業務フロー標準化検討
- ◆自治体間でのGIS技術の支えあい(研修会開催)

GISに関する技術を共有しながら、業務の効率化・高度化の検討を行っています。住民への情報発信が必要な場合は、地域情報ポータルサイトG-mottyを利用しています。

●一般社団法人G-motty

【一般社団法人G-mottyとは・・・】

G-mottyは、「“地域愛”を育むことを手助けし、“地域らしさ”をアピールすることを後押しする。」ことを組織理念とし、地域情報の収集、蓄積、さまざまなメディアを介した地域情報発信とそれらに係わる地域活動を実践する組織です。

【加盟団体】

(大学)

国立大学法人九州工業大学、公立大学法人兵庫県立大学

(自治体)

北九州市、直方市、行橋市、苅田町、香春町、鞍手町

(民間企業)

株式会社ゼンリン、ESRIジャパン株式会社、株式会社福岡放送

- 1 北九州地区電子自治体推進協議会(KRIPP)と一般社団法人G-motty
- 2 地域情報ポータルサイトG-mottyで実現した例
- 3 モノ創りに必要な要素

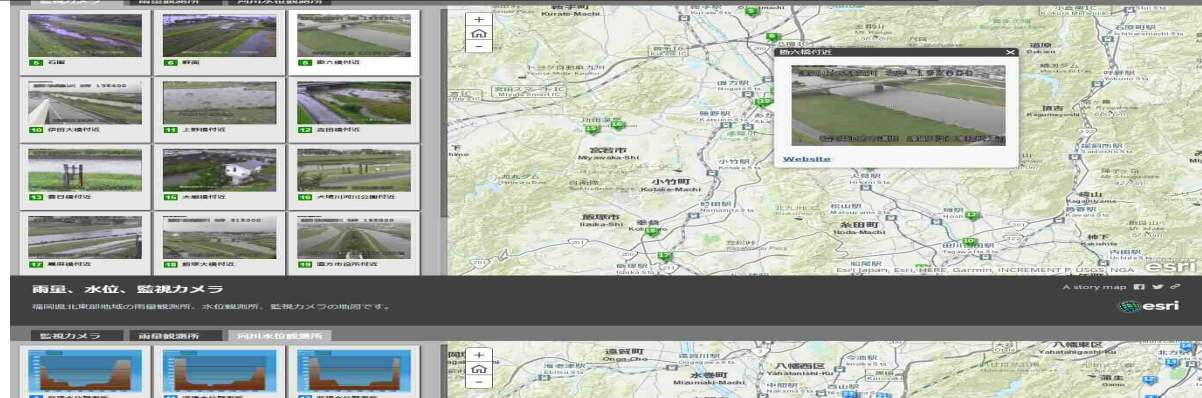
2-1 地域情報ポータルサイトG-mottyで実現した例①

●土砂災害警戒区域・浸水想定区域【3D版】



防災対応用の地図も自治体間連携で同じ基盤の上で実現しています。

●河川水位観測所・監視カメラ・雨量観測所



局地的大雨時などに利用する河川水位観測所・監視カメラ・雨量観測所のリアルタイムデータも自治体間連携で見られるようにしています。

防災情報も大事な情報ですが…。
平常時からG-mottyを見てもらわないと災害時に見てもらうことはできません。

●災害時の現地調査用モバイル端末アプリ(北九州市・直方市)



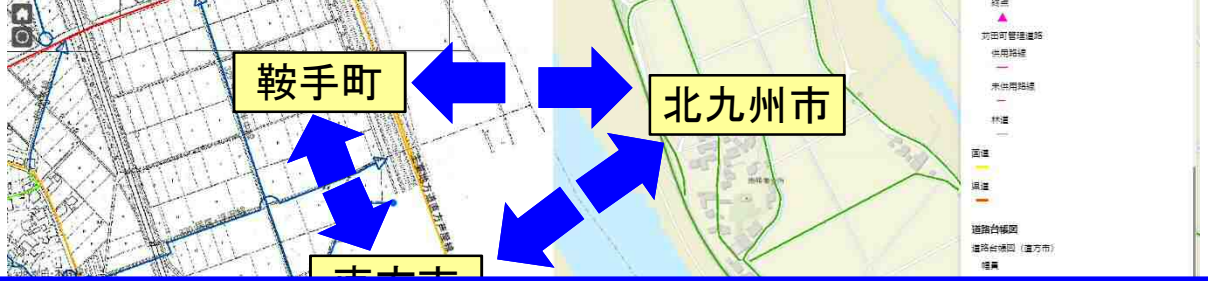
- 事故、災害時の現地状況の迅速な把握
- 情報共有の迅速化

北九州市では、災害時の被害把握だけでなく、平常時に道路の穴や道路に覆いかぶさった木の枝などの把握にもこのアプリを利用

平常時から災害時への連続性の確保

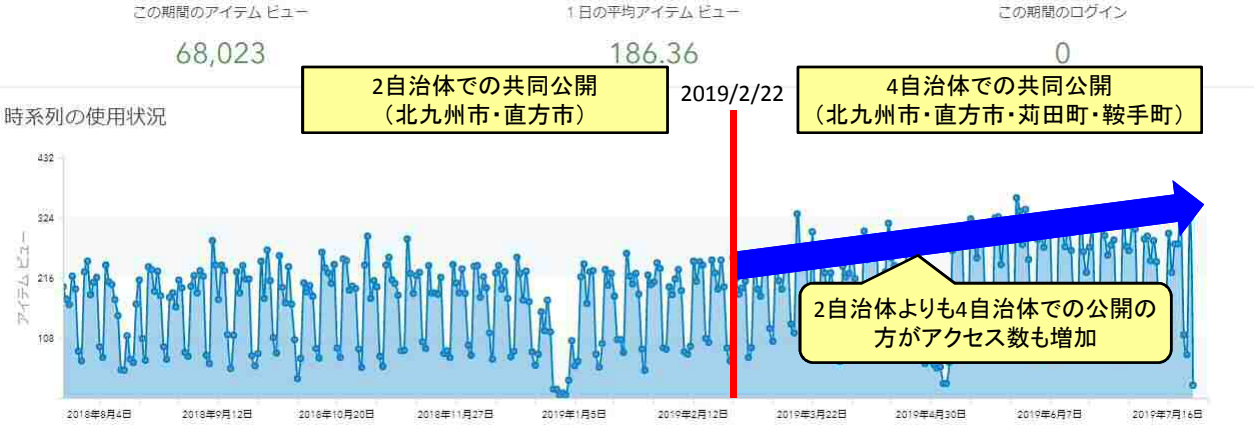
- ・平常時に利用していないものは災害時には利用できない。
- ・平常時に利用していても災害時には利用できないこともある。

● 道路路線網図・幅員マップ(北九州市・直方市・鞍手町)



- 道路路線網図・幅員マップは、不動産屋さん等が良く使う地図です！
- 北九州市から始めた取り組みですが、周りの自治体の情報も見たい！
というのは、当然のニーズです！
- この情報は、法律で自治体が情報提供をすることになっています。
- 自治体職員間の繋がりがあれば、共同で地図を公開することも！

● 道路路線網図・幅員マップのアクセス数の変化



● 住民サービスの向上(業務の効率化)

宅建協会にマップの周知をして、不動産業者さんたちが窓口に来ることなく、道路情報を見ることができるようになった。

2-6 地域情報ポータルサイトG-mottyで実現した例④

●道路路線網図(室蘭市)



道路路線網図の表示のみですが、北九州地域(九州)で実施していたモノが、室蘭市(北海道)にも広がってきました！

2-7 地域情報ポータルサイトG-mottyで実現した例⑤

●北九州市立医療センターを核とした地域連携



安心して治療に専念！

【課題】

病院やクリニックの情報は、住民にとって重要な地域情報(病気やケガなどの人命に関係する情報)ですが、集約された情報が少ない！

- 顔の見える連携
- 診療情報の共有

「北九州市立」であるからこそ、地域医療に関する情報を作成して、公開することは、やってもいいのではないかな？

連携病院



北九州市立医療センター

登録医療機関の先生

2-8 地域情報ポータルサイトG-mottyで実現した例⑤

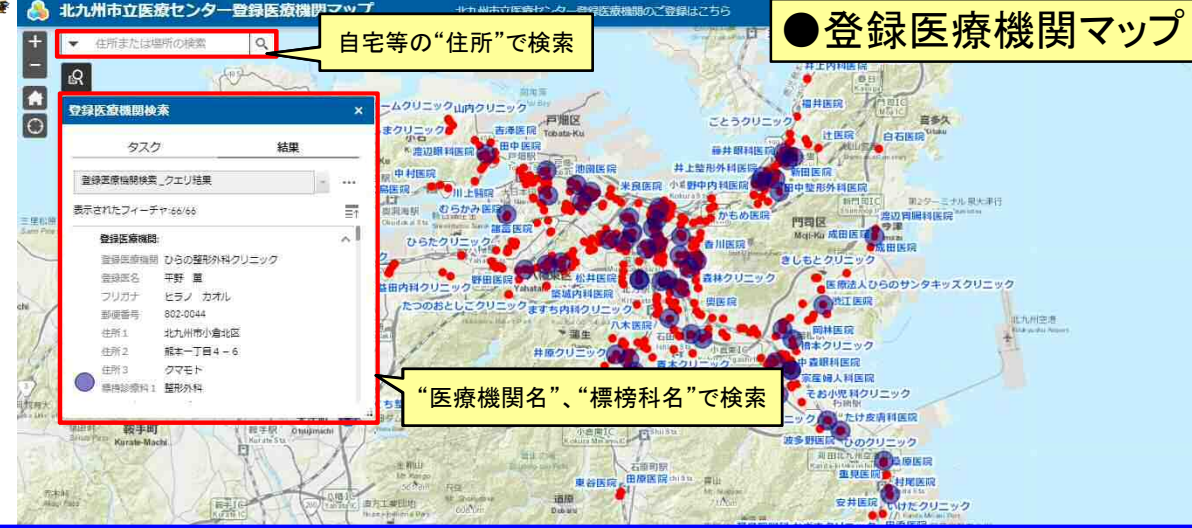
●福岡県内の災害拠点病院マップ



大規模災害時にケガなどをしたときに、どこに行けば受診できるか知っていますか？

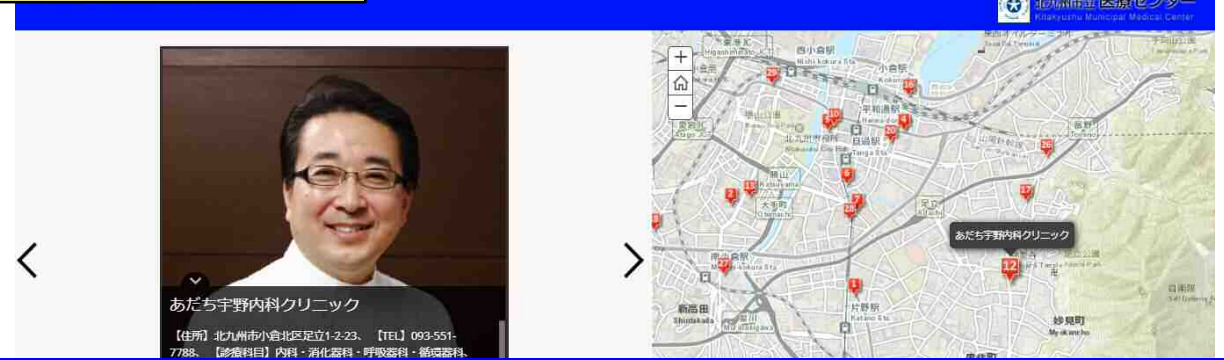
2-9 地域情報ポータルサイトG-mottyで実現した例⑥

●登録医療機関マップ



元々、北九州市立医療センターが患者さんのために作成したマップですが、G-mottyに掲載すると、住民にとって『診療所マップ』として活用可能！

●登録医紹介マップ



北九州市立医療センターが地域医療を推進するために作成したマップですが、G-mottyに掲載すると、住民にとって『**医師の顔が見える診療所マップ**』になる

利用者からは、『**受診前に先生の顔が見えるので安心できる**』等のご意見をいただいています。

●連携病院マップ&施設紹介ページ



北九州市立医療センターの患者さんやその家族が『**転院先の病院の情報を写真で見たい**』という要望から作成しましたが、G-mottyに掲載すると、**住民も『地域の病院施設情報を見ることができる』**ことに繋がりました！
⇒今後もドンドン掲載病院数を増やしていく予定です。

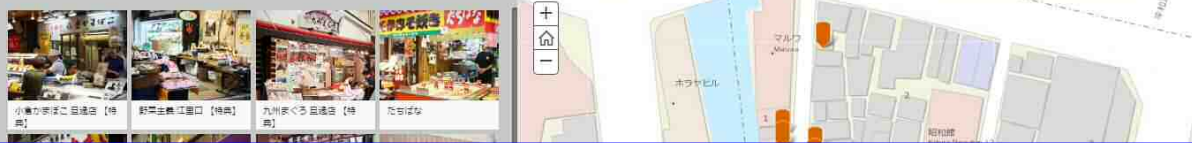
●北九州市立医療センター周辺のランチマップ Produced by G-motty



北九州市立医療センターの医療スタッフが患者さんやその家族から『医療センター周辺でランチを食べられる処を教えてください。』と聞かれるので、マップが作れないかという要望に対応するために作成したのですが、医療センター周辺で働いている人などにも『ランチマップ』として活用されています！

医療法のガイドラインの縛りがあり、北九州市立医療センターが自ら動くことができないため、地域情報ポータルサイトG-mottyと連携して作成、公開！

●旦過市場マップ Produced by G-motty



北九州市立医療センターのすぐ側にある『北九州の台所 旦過市場』と連携した取組みを開始しました！

『旦過市場マップ』を作成して、待ち時間対策を図るとともに、患者さんが診療後に旦過市場に行く流れを作るために、協力していただける店舗に特典をつけてもらっています。

この取組みは、地域のにぎわいづくりを目的にしていますので、特典は、条件を満たせば、誰でも受けることが可能です。

取材に行くことで、『市場の方々との人間関係』が生まれました！

2-14 北海道胆振東部地震時のKRIPPの対応

北九州市立 医療センター
Kitakyushu Municipal Medical Center

【室蘭市】復電マップ with Web AppBuilder for ArcGIS

住所または場所の検索

レイヤーリスト

①直方市がデータを作成

②北九州市がWebアプリを作成

塩田は何もしていません…。

①『被災した自治体からsosの連絡が来ることはない！』
⇒被災していない自治体側から連絡をとる！大事なことは **“Action”**

②緊急時に自ら考えて対応できる人材を育成しておくこと
⇒〇〇がいないと回らないという状況ではNG！

③必ずしも現地に行くことだけが支援に繋がるのではない。
⇒遠隔でもできる支援がある(熊本地震、平成30年7月豪雨での実績)

141.05742.370 度 Eri Japan, Eri, HERE, |

本日の内容

G-motty
www.g-motty.com

北九州市立 医療センター
Kitakyushu Municipal Medical Center

- 1 地理空間情報プラットフォームG-mottyで実現した例
- 2 自治体間連携で1つモノを創り上げるために北九州地域でやってきたこと
- 3 モノ創りに必要な要素

地図のまち(都)北九州!

No	横展開に必要な要素	要素の詳細
1	コスト	<p>参画自治体による運用コストの予算化 (タダより怖いものはない！)</p> <p>イニシャルコスト0円 COTSの考え方を取り入れて費用の減減を図る</p>
2	組織・体制の整備	<p>庁内GISワーキンググループ (自治体ごと、団体ごと)</p> <p>GISセンター 地域GIO会議</p>
3	標準的な手順処理の確立	<p>COTS (広く普及しているソフトウェア、サービスの活用)</p> <p>ジオコーダーの標準化 業務フローの標準化 (SOP)</p>
4	適用技術	<p>クラウドの活用 (自治体クラウドと民間クラウドのマッシュアップ)</p> <p>COTSにより、バージョンアップで常に最新のAppsを利用できる環境</p>
5	人材育成	<p>庁内GIS-WGや地域GIO会議を活用した能力向上 (ハリネズミ計画)</p> <p>大学や民間企業との連携 率先的住民・団体の参画</p>
6	情報システムの利活用	<p>庁内GIS-WGや地域GIO会議で検討したSOPに基づき設計されたシステム</p> <p>平常時から災害時の連続性 Action起こすための分析</p>

ご清聴ありがとうございました！

北九州市立医療センター医療情報管理室
医療情報システム担当係長

塩田 淳 博士(工学)

TEL:093-541-1831

Email:atsushi_shiota01@kitakyu-cho.jp